

## 特集 中学生・高校生の新聞活用教育に迫る

# 探究的な学びを20年先取り 研究の入り口は新聞

海城中等高等学校（私立・東京都）その1

### 新しい紳士の育成を目指す 中高一貫の男子校

東京都新宿区にある私立中高一貫の男子校、海城中等高等学校は、1891（明治24）年に設立された海軍予備校を前身とし、1947年に新制海城中学校、48年に新制高等学校が開校した。建学の精神「国家社会に有為な人材の育成」の下、フェアな精神、思いやりの心、民主主義を守る意思、明確な意思伝達能力を備えた「新しい紳士」の育成を目指している。

屈指の進学校としても知られ、2024年度は東京大に49人、京大に7人、一橋大に20人、東京工業大に11人など国立大に計179人が合格。私大では早稲田大に141人、慶応大に132人が合格している。卒業生の活躍の幅は広く、アナウンサーの徳光和夫氏、三菱自動車前会長の益子修氏をはじめ各界に著名人を輩出している。

お堅いエリート校と思いきや、学校は歩いて一駅が新宿という場所。街や人の様子を肌で感じながら生徒たちは成長していく。部活動や体育祭・文化祭などの行事も盛んだ。近

年、ベンチャー企業を立ち上げたり、ソーシャルビジネスに力を注ぐ卒業生が増えたりしているのも、時代の風を感じられる環境とリベラルな校風、そして今回紹介する「新たな学力観」に基づいた教育があつてこそだろう。

### 中学時代から 社会と世界に目を向ける

同校のカリキュラムは、体系だった知識や教養をしっかりと習得する「系統学習」と、課題解決型の新しい学力を身につける「総合学習」の2本立てでバランスよく実施されている。

特に中学校の社会科は「地理」「歴史」「公民」の3分野の系統学習に加え、総合学習として「社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という独自科目を週2コマ設けている。

「社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が始まったのは1992年度で、今の学習指導要領にある「総合的な学習の時間」や高校の「探究」系の科目よりずっと古い。社会と世界に目を開き、自発的な研究能力、積極的に社会問題に気が付く力を育むことに目標が置かれている。



1学年の生徒数は約330人、8クラス編成。高校も入ると約2000人が通う。

### 教科書のない授業で 新聞が手がかかりになる

「社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では教科書は用いず、各学年でカリキュラムや指導内容は定めつつも、担当教員の自由度は比較的高い。いかに生徒の興味・関心を引き出し、研究へと向かわせられるか。社会科教員にとっても、やりがいのある時間だ。

そして、多くの先生方が授業で活用するのが新聞だ。「社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が始まった当初から生徒には新聞を読むことを勧めてきたという。政治、経済、社会、文化など様々な分野の記事を読むことで、幅広い知識が身に付くだけでなく、視野を広げるのに役立ち自主研究のテーマ選びのきっかけになる。読み続けることで読解力や論理的な思考力、批判的思考力も高まる良質な教材だと捉えている。社会だけでなく、他の教科の先生方も、必要であれば新聞を切り抜いて生徒に紹介するこ



中学3年で書き上げる「卒業論文集」

とが多いそうだ。

### 新聞ダイジェストを1人1年間購読

現在、社会科では月刊「新聞ダイジェスト」を併用しながら新聞を授業に活用している。6大新聞1カ月の主要記事を分野別に整理した新聞ダイジェストを初めて手にしたとき、立川教諭は「気軽に読める印象だったが、目を通すと記事のバリエーションが豊かで、これなら生徒が様々なニュースに触れられると思った」という。

校内の図書館では小中高生向けのオンライン記事データベース「朝日けんさくくん」や「日経テレコン」も一部導入している。検索型のデータベースはテーマや調べたいキーワードが決まっている場合は役立つが、「何かないだろうか」とランダムに探索する場合には不向きの場合もある。また、個人のスマートフォンで目にする情報は、いつものまにか自分の見たい情報しか入ってこなくなる「フィルターバブル」に陥り



毎月の表紙を楽しみにしている生徒もいるそう。

まず、1・2年生は自分の興味や関心をもとに自主的に研究する態度を次の3段階で育んでいく。

- ①新聞記事や書籍などの文献情報を収集し、活用の仕方を学ぶ。
- ②実社会で企業や団体、個人に取材をし、自ら調査できる力や礼儀、倫理観を伸ばす。
- ③文献や取材をもとに集めた情報を、レポートにまとめる力、仲間の前で発表・討論する力を付ける。

そして中学3年の「社会Ⅲ」では、研究の集大成として「卒業論文」を書き上げる。400字の原稿用紙30〜50枚が標準で、優秀作品は「論文集」に全文掲載される。その目次には大学生の卒論に匹敵するハイレベルなタイトルが並ぶ。

やすいといわれる。

実際、生徒が提出するレポートで、明らかにフェイクニュースを情報源とした記述がみられることもあるといい、立川教諭は「ネットニュースはうのみにせず、編集者の手を経ているものを情報として活用しなさい」と繰り返し伝えていくという。

授業で新聞ダイジェストを採用するか、またどのように活用するかは毎年、担当の教員に任されている。活用する場合は、生徒に1冊ずつ1年間購読する形をとる。授業で使った経験のある社会科の先生方は、次のように話している。

「昨年度、中学1年でレポートのテーマ設定に使ってよいと渡した。あまり詳しく中身まで読み込むと、生徒の関心が流れてしまうので気を付けている。表紙がカラーなのも生徒は楽しみにしているようだ」「沖縄の基地問題をテーマにしている中学3年生には、地方紙の報じ方にも注目してごらんとアドバイスした。新聞ダイジェストで手に入る全国紙の報道との違いにも気づければレポートの質は上がるのではないか」「クラス40人のうち紙の新聞を読んでいるのは15人程度。新聞をめくってテーマを探しあてる代わりに、新聞ダイジェストを活用した。中学1年ではまだ各紙の特徴には気づかないが、学年が上がれば記事の読み比べができるようになると新聞の面白さがわかってくるのでは」。

編集・取材 長尾康子